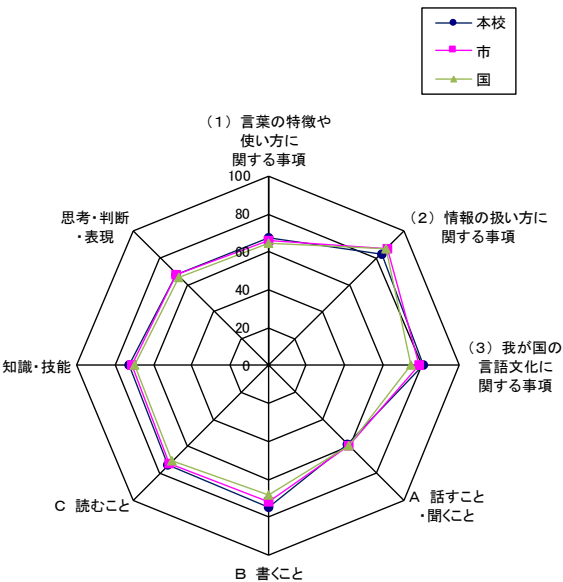


宇都宮市立石井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	67.5	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	83.6	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	80.9	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	58.2	59.9	59.8
	B 書くこと	75.0	71.8	68.4
	C 読むこと	73.9	72.9	70.7
観点	知識・技能	72.4	71.5	69.8
	思考・判断・表現	68.3	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

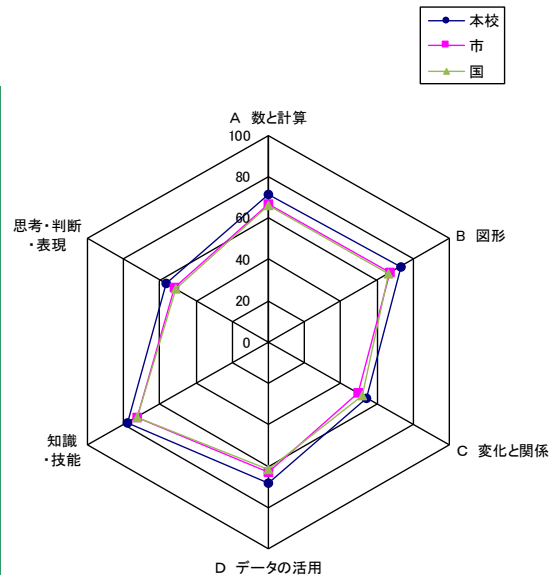
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、全国や市の平均よりやや高い。 ○漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかについての問題は市の平均を上回っていた。 ●文の中における主語と述語の関係を捉えることができるかどうかについての問題は市の平均を下回った。	○漢字の意味を正しく理解し文章で練習をさせるように指導を行っていく。 ・文章を読む際には、主語と述語の関係や、その言葉の文中での働きについて着目させ、文の組立てについての理解が深まるように指導する。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、全国や市の平均より低い。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかについての問題は市の平均を下回った。	・資料を活用して自分なりにまとめる学習では、振り返りの際に資料のどこを活用したかについて触れさせ、複数の情報をまとめる上で自身の資料の扱い方を分析することで、情報の関連付けを意識できるよう指導する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は全国や市の平均より高い。 ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかについての問題は市の平均を上回っていた。	・今後も読書活動を充実させ、読書を通して必要な知識や情報を得たり、新しい考えに出会い、自分の考えを広げたりすることができる機会を設けていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国や市の平均より低い。 ○目的や意図に応じて、資料を関係づけて伝え合う内容を検討することについての問題は、全国や市を上回る7割の正答率であった。 ●資料を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫することについての問題の正答率は5割であった。	・国語科、社会科、総合的な学習の時間などで、資料を活用しながら自分の考えを伝える課題を意図的に設定し取り組ませることにより、話す力を伸ばしていく。 ・朝の会、帰りの会、学級活動などで、全体の前やグループ、ペアなどで話す時間を設けることにより、話すことや聞くことに慣れ親しむことができるようにする。
B 書くこと	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○目的に応じて、集めた材料を活用して伝えたいことを明確にして書くことについての問題は、国や市を上回る正答率であった。 ●目的に応じて事実と意見を区別して書くことについての問題は、全国や市を上回るものの6割程度の正答率であった。	・授業の振り返りの時間に、学習して分かったこと、もっと知りたいこと、感想など自分の考えを書く時間を設定することにより、書く活動に慣れるようにする。 ・各教科や領域において、目的に合わせて、事実と意見を区別して書く課題を設定していくことにより、力を伸ばしていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○物語文で、人物像を具体的に想像することについての問題は、国や市を上回る8割以上の正答率であった。 ●人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることについての問題は、国や市を下回る7割程度の正答率であった。	・学校図書館を活用し、朝の時間などの読書活動を充実させることにより、様々な物語文に親しめるようにする。 ・国語科の物語文の学習において、人物像、話の全体像、表現の効果について考える課題を設定することにより、物語を読み取る力を伸ばしていく。

宇都宮市立石井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	71.5	66.7	66.0
	B 図形	73.0	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	54.1	49.6	51.7
	D データの活用	68.0	62.9	61.8
観点	知識・技能	78.0	72.6	72.8
	思考・判断・表現	56.6	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	正答率は、全ての問題において全国や市の平均よりも高い結果となっている。 ○数量の関係を、口を用いた式に表す問題では、正答率が、93.7%と市や全国の平均を2ポイント以上、上回っている。 ●示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する問題の正答率については、全国や市の平均を6ポイント上回っているものの、56.8%と他の設問に比べて低くなっている。	・引き続き、数の構成、かけ算や割り算の意味、小数や分数のしくみなど、計算の基礎となる事項についてはドリルなどを活用して繰り返し練習して定着を図る。 ・データの読み取りと、それを用いて式を立てる複合的な問題の演習を意図的に取り入れて、問題に慣れることができるようにする。
B 図形	正答率は、全ての問題において全国や市の平均よりも高い結果となっている。 ○直方体の見取り図について理解し描く設問では、正答率が、91.1%と、全国や市の平均を5ポイント以上上回っている。 ●球の直径の長さや立方体の一片の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す設問では、全国や市の正答率を上回っているものの、44.1%と低くな	・図形について、具体物やICT機器を活用し、具体的にイメージをして、図形を捉えることができるようにする。 ・問題を解くために必要な条件は何かを、話し合い活動などを取り入れながら丁寧に確認することで、一人一人の理解を深めながら授業を進めるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は、全国や市の平均よりも高い。 ○速さがどのくらいかを求める問題では、国や市の平均正答率よりも高い。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を記述する問題では、全国や県の平均よりも高いものの、正答率が31.5%と、理解度が低めであった。	・基準量、比較量、割合、百分率などの関係をしっかりと抑えらるよう、ドリル学習やAIドリルなどを中心に取り組むようにする。 ・道のりや時間、速さについて日常の事象を例にあげながら、分かりやすく指導する。
D データの活用	平均正答率は、全国や市の平均よりも高い。 ○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題では、国や市の平均正答率よりも高い。 ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題では、国や市の平均正答率よりも高いものの、正答率が53.2%と、他の設問よりも正答率が低い。	・分類されたデータをグラフや2次元表に表す活動を多く取り入れ、分類、整理する能力の育成を図る。 ・理科や社会科、総合的な学習の時間など、他教科との関連を図りながら指導する。 ・問題文に書かれている条件をしっかりと捉え解決していけるよう、読解力の向上に努める。

宇都宮市立石井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」の質問において、「全く使っていない」と回答した児童は16.5%で全国と比べて9.4ポイント低い。また、「1時間以上」と回答した児童は22.6%で全国よりも10.6ポイント高い。学習にICT機器を活用する習慣が身についていることが考えられる。使い方の指導をしながら、さらに効果的な活用ができるようにさせていきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」という質問への肯定的回答は90.4%で、全国と比べて8ポイント高い。これからも夢や目標をもつことの大切さを伝えるとともに、様々な職業があることや、その仕事内容に触れる時間を確保することで、将来への希望が更にもてるようにしていきたい。

●「友達関係に満足していますか」という質問への肯定的回答は84.4%で全国と比べ6.7ポイント低い。学習においてはペア学習やグループ学習を取り入れ、休み時間には共有遊びの時間を意図的に確保するなど、友達関係を広げたり深めたりできる場の設定の必要性を感じた。また、道徳の時間等を通して友達との関わり方や友達の大切さについて考えられる場を継続して設定していきたい。

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の質問では、平日1時間以上学習している児童は81.7%で全国と比べて28.1ポイント高く、土曜日や日曜日にどれだけ学習しているかの質問をみると、土日に1時間以上学習している児童は73.9%で全国よりも25.3ポイント高い。計画的に学習する習慣が身についていると言える。

●「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問への肯定的回答は76.5%で、全国と比べて7ポイント低い。社会科の学習などを通して、地域との関わりをもつとともに、宇都宮学を通して地域のよさや課題を学ぶことで地域に貢献しようとする気持ちの醸成を図りたい。

●「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」の質問への肯定的回答は75.7%で、全国と比べて7.5ポイント低い。日記指導や要旨をまとめる学習などを通して文章を書く力をつけることができる場面を増やしていくようにしたい。

○「英語の勉強は好きですか」の質問への肯定的回答は75.4%で、全国と比べて6.1ポイント高い。中学校につなげていくためにも、英語の技能をさらに伸ばしていけるような工夫をさらに取り入れていくようにしたい。

**宇都宮市立石井小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組**

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを伝え深め合う活動の工夫	・振り返りにおいて、自分の考えたことや気づき、今後の課題などを書く活動を取り入れている。 ・ペアや少人数での考えを伝え合う活動を各教科で取り入れている。	・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問の肯定的な回答の割合は、75.8%となっており、考えの違いについて考えることに苦手意識をもっている児童がいることが分かる。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」という質問についての肯定的な回答の割合は、86.3%となっており、話し合い活動には積極的に取り組むことができていない児童が多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを文章で書き表すことや、自分から考えを伝えることに課題が見られる。 ・伝え合いの活動から、話し合いで深め、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにすることが必要である。	・各教科において主体的に考え、充実した話し合いを行うことで、互いの考えを共有したり、深めることができるようにする。	・各教科において、自分の考えを整理し、書き表す活動を積極的に取り入れ、考えを書くことに慣れることができるようにする。 ・解決したい児童自身の「問い」や「疑問」を明確にもって話し合いに臨むことができるように、解決に向けての話し合いであることを意識させる活動を意図的に取り入れていく。